

肢体不自由児の自立へ「教科書」 横浜・中村特別支援学校が博報賞

横浜市南区の市立中村特別支援学校の教員が、肢体不自由児の「自立活動」の授業の“教科書”を自ら作り上げた。その取り組みが評価され、同校は第42回博報賞（博報児童教育振興会主催）を受賞した。

教科書「わたしたちのうんどう」は、手や足の感覚を磨いたり、上手な呼吸法を身につけたりする訓練方法を、イラストや人形の写真などを交えて視覚的に紹介している。いずれも子どもたちが一斉に取り組める内容になっている。

「自立活動」は、障害に応じて運動やコミュニケーションなどの訓練をする授業だ。ただ、具体的な指導書はなく、教員の裁量に任されている状態。重度の肢体不自由児が通う同校でも、歩行器に乗って動き回るのが好きな子は、ずっと動き回っているだけなど、体系的な指導はできていなかった。

「これでは世話しているだけで、教育ではない」。そんな思いから2008年から教員向けの教科書づく

りを始めた。教育である以上、みんなで一緒にできて、安全で少しでも効果が上がるカリキュラムを作りたい。解剖学や生理学を学び直し、専門の医師にも助言を求めて、09年春に初版が完成した。

教員の知識や力量に差があっても、同じ教室で一緒に取り組める。授業に使ってみると、子どもたちは隣の子の頑張りに刺激され、積極的に体を動かすようになった。保護者も家庭で予習、復習できるようになった。

使ってみた教員の感想を聞いて改善を重ね、よりわかりやすくと、写真やイラストを増やした。写真にモデルとして登場する人形は、人形づくりが得意な教諭が担った。現在、授業で使っているのは第3版。さらに、出版社から書籍として出版する計画もある。

（朝日新聞・神奈川 2011年11月17日）